



第51回 滋賀県芸術文化祭参加

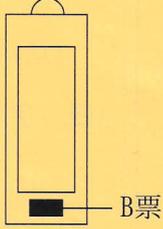
令和3年 第38回藤樹先生書道展 開催要項

藤樹先生の御聖徳を敬慕し、書の上達を祈念し第38回書道展を開催致します。一人でも多く個性ある力作を出品してください。

1. 主催 NPO法人心のふるさと書道会
2. 会期 令和3年10月6日(水)～10月10日(日)
3. 会場 高島市藤樹の里文化芸術会館
4. 応募資格 高校生以上の方
 1. 委嘱出品者 本展で無鑑査奨励賞受賞の方
 2. 無鑑査 市展特選又は本展で特選2回以上取得の方
 3. 一般 上記以外の方
5. 課題 要項に示した藤樹先生のことばの中から書くこと
6. 応募規定
 1. 規格 画仙紙半切(135cm×34.5cm)縦長に書くこと
 2. 体裁 仮巻軸にはって出品すること
7. 出品料 一点 1,000円

9月25日、26日に藤樹の里文化芸術会館までご持参ください。
 ご都合が悪い方は、下記口座までお振込ください。
 振込先 ゆうちょ銀行振替口座
 振替口座 00910-6-288660
 口座名義 藤樹先生献書会
8. 出品点数 一人一点
9. 出品手続

出品票に、郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入し、
 Aは仮巻軸の巻き終えた上に添付すること
 Bは出品作品の下に貼りつけること
 団体出品される方は出品目録を提出すること



氏名と町名または大字名
10. 応募期間
 1. 令和3年9月25日(土)・9月26日(日) 2日間
午前10時より午後5時までに次の場所まで
 2. 搬入場所 高島市藤樹の里文化芸術会館
住所 〒520-1224 滋賀県高島市安曇川町上小川106
TEL 0740-32-2461
11. 審査 令和3年10月5日(火) 正午より
12. 入賞発表 審査の後、本人あて通知致します。
 1. 無鑑査奨励賞 5点
 2. 特選(県芸術祭奨励賞他) 20点
 3. 佳作 30点
13. 表彰式 令和3年10月10日(日) 午後3時30分より藤樹の里文化芸術会館
14. 作品搬出 令和3年10月10日(日) 午後4時15分より搬出
搬出に來られない方については着払いで返送します。
15. 後援 高島市・高島市教育委員会・レーク滋賀農業協同組合・NPO法人高島藤樹会・高島市美術協会・(公財)藤樹書院・朝日新聞大津総局・京都新聞・産経新聞社・読売新聞大津支局・毎日新聞大津支局・西嶺会・澄心会・(株)呉竹・攀桂堂・(株)墨運堂
16. 問合せ先 藤樹先生書道展 事務担当 駒井 090-9714-7677

第38回 藤樹先生書道展課題

注:明朝()内は読み下し
【 】内は解説

- (二 字) ① **聖賢** (せいけん)
【聖人と賢人。聖人とは孔子であり、賢人とは顔回・曾子・孟子などをさす】
- ② **慈愛** (じあい)
【すべての物をいつくしみ愛すること。それが「天」の心である】
- ③ **恭敬** (きょうけい)
【すべての物を差別することなくつつしみ敬うこと。それが「地」の心である】
- ④ **洗心** (せんしん)
【心に染みつけた我欲をとりのぞくこと。藤樹の学問の主眼はここにある】
- (三 字) ① **致良知** (良知にいたる)
【すべての人間にそなわっている聖人の心を發揮すること。訓み方は藤樹独自のもの】
- ② **明明徳** (明徳を明らかにす)
【大学という書物の冒頭のことば。太陽のような輝かしい徳を磨くことで、良知と同じもの】
- ③ **慎其獨** (その独りをつつしむ)
【人が見ていなくても、つねに行いをつつしむこと。この日々の実践こそが聖人への道】
- ④ **尊徳性** (徳性をたつとぶ)
【徳性は良知、明徳とまったく同じ意味。性とは生まれながらにそなわった心をいう】
- (四 字) ① **明鏡止水** (めいきょう・しすい)
【我執我欲、妄念などをまったく除き去って、何のわだかまりもない澄み切った心をいう】
- ② **日新之益** (にっしんのえき)
【日々間断おこたることなく、心学に精進努力することが、やがて聖人に近づくことができる】
- ③ **天君泰然** (てんくん・たいぜん)
【天君とは明徳、良知のこと。心学を修めていたら、いつかはわが心に天君がどっしりと坐る】
- ④ **至徳要道** (しとく・ようどう)
【孝經にある孔子のことば。至徳とはこの上のない徳であり、要道とは重要な教え。それを孝という】
- (五 字) ① **人天地之徳** (人は天地の徳なり)
【すべての人間は天の徳(慈愛)と地の徳(恭敬)の両方を具わって生まれたのである】
- ② **人萬物之靈** (人は万物の靈なり)
【書經のことば。人はその天地の徳を具わっているが、他の動植物にはそのような天地の徳はない】
- ③ **心事是一也** (心事これいつなり)
【心と物ごととは不可分である。すなわち人間の行いの善し悪しは、その人の心を映し出している】
- ④ **明月不沈波** (明月は波に沈まず)
【明徳明らかな人は、どんな不遇な立場に置かれていても、決してそれで終わることはないという譬え】
- (六 字) ① **古來難聞者道** (古來聞きがたきは道なり)
【いつの時代でも、聖人の教えを正しく説く「真儒」に出会うことは、難しいものである】
- ② **滿招損謙受益** (満は損をまねき、謙は益を受く)
【書經のことば。満心を起こすと自ら損失してしまい、謙讓の心がかえって自分に得るものがある】
- ③ **萬物一體之心** (万物一体のこころ)
【すべての人間は太虚という一つの宇宙から生まれたので、人間同士に尊卑の差別など存在しない】
- ④ **孝在混沌之中** (孝は混沌の中にあり)
【親に仕えるだけが孝ではない。混沌という原初の宇宙とそのはたらきをさして孝と呼んだ】

- (七 字) ① **天上無心生泰陽** (天上は心なくして泰陽を生じ)
【天には人間のような心は無いが、万物に恵みをあたえるための太陽が照らしている】
- ② **人間有意嘉新正** (人間は意あって新正を嘉みす)
【人間には心が具わっているので、毎年めぐってくる正月元旦をよろこぶ】
- ③ **人間天上本無異** (人間天上もと異なるなし)
【人間と天とは、一つの太虚から生まれたがゆえに、本質的に違いはないのである】
- ④ **日用良知惟至誠** (日用の良知これ至誠)
【日々実践している良知は、すなわち天の心につうじる至誠にほかならない】

- (和 歌) ① **好悪の色に心をとどめねば 柳はみどり花は紅。**
【好き嫌いという無意識のクセを取り除けば、身のまわりの人や物が本来の正しい姿に見えてくる】
- ② **流れ行く水にひとしき心あらば 何かけがれのあらん世の中。**
【水に五徳ありというが、その水のような心をすべての人が持ったならば、温和な世の中になる】
- ③ **いかで我こゝろの月をあらはして やみにまどへる人をてらさむ。**
【何とかしてわが心の明德の月でもって、凡情に迷っている人たちを照らして行きたい】

- (調和体) ① **明鏡あいがたきは道の明なる師。**
【見識のせまい学者はいくらでもいるが、真儒に出会えるのは難しいものである】
- ② **明德は天下第一の寶。**
【わが心に具有している明德は、金銀珠玉とは比較にならない素晴らしい宝なのである】
- ③ **廉は損に似たる徳なり。**
【無欲で人格が高潔な人は、損しているようであるが、本質的には徳を得ている】

※七字の課題については、2 題を組み合わせると十四字にもできます。

(撰・釈文 中江 彰)

キリトリセン

出品票①は仮巻の巻き終えた上に添付し、②票は出品作品の下に貼りつけること。

① 令和3年 第38回 藤樹先生書道展			資格(○印でかこむ)
所属名又は団体名	代表者		1. 委 嘱 2. 無鑑査 3. 一 般
フリガナ			
氏 名			
住 所	〒	電話番号	

キリトリセン

② 令和3年 第38回 藤樹先生書道展	
氏 名	
住 所	

(市町村名をご記入下さい。)

講演会のお知らせ（予告）

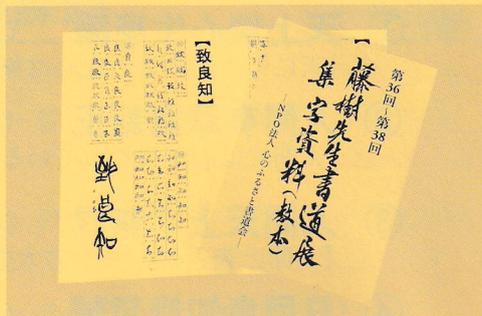
演題 「藤樹先生の教えについて」 (仮)

講師 中江 彰 先生
元近江聖人中江藤樹記念館館長
国際中江藤樹思想学会理事長

日時 令和3年10月5日(火) 16:00~

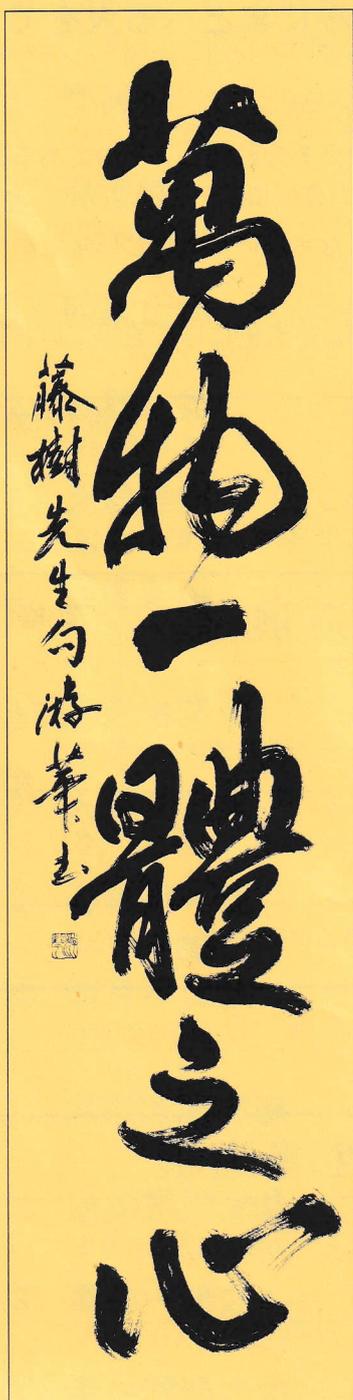
場所 藤樹の里文化芸術会館

参加費 無料



NPO法人心のふるさと書道会では作品制作のための教本を作成しています。お求め等詳細は事務担当 駒井までご連絡ください。

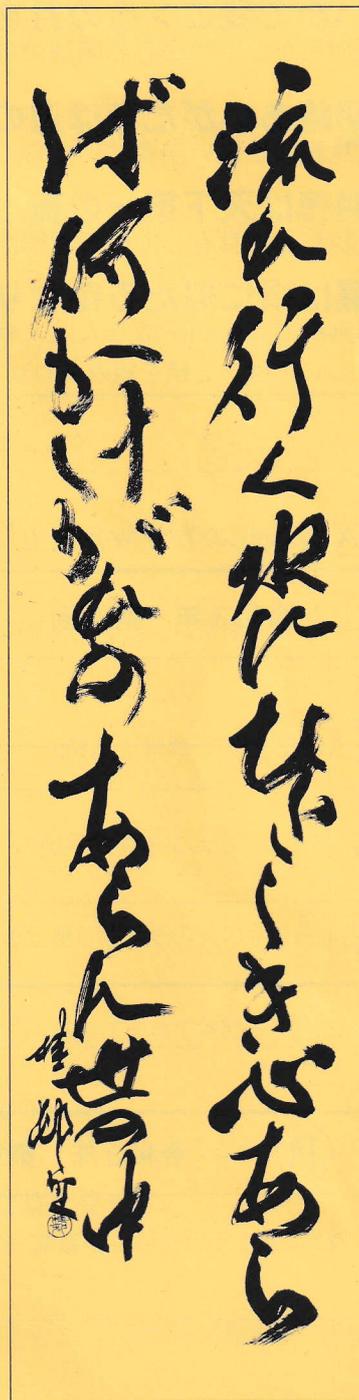
<参考作品>



八田 游華 書

「萬物一體之心」

すべての人間は太虚という一つの宇宙から生まれたので、人間同士に尊卑の差別など存在しない



西川 桂邨 書

「流れ行く水にひとしき心あらば 何かけがれのあらん世の中」

水に五徳ありというが、その水のような心をすべての人が持ったならば、温和な世の中になる